

学生支援の現場から

◆山口県立大学
「人とかかわる力」を育てる学生支援

人見 英里
(山口県立大学 学生支援部副部長、看護栄養学部 教授)

大学生の人とかかわる力が低下していることが問題視されている昨今ですが、その傾向は、若者たちが大学入学以前に十分な生活経験や社会体験をしてきていないことから来るのではないかと我々は考えています。そこで、学生たちに大学時代にさまざまな人々とかかわる機会を与え、それらの体験を通じて自主・自立の精神を養っていきけるよう、本学ではい



山口祇園祭に参加した「ゆかたで華麗に踊り隊」

くつかの取組を行っています。

平成一八年度より、学生たちが自身で企画・展開する活動を公募し、採択された企画には活動資金を助成する「YPUドリーム・アドベンチャー・プロジェクト」を始めました。助成金額としては一件あたり一〇万円未満と大きな額ではありませんが、学生たちはその資金でいきいきと活動しています。二年目となる一九年度は、応募一三件のうち、山口三大祭りの一つ山口祇園祭に大学からチームを作って参加する「ゆかたで華麗に踊り隊」、学内の廃棄された自転車を生かす「えこチャリ(山口県立大学自転車再生・地域再生プロジェクト)」、栄養学科学生グループが学生食堂の改革を目指した「ぶちうま☆ランチ+YPU☆One Plate Lunch ☆Project」意外に知らない大学周辺の情報を自主制作ホームページで紹



YPUドリーム・アドベンチャー・プロジェクト報告会(えこチャリ)



ジュニアTA：図書館の蔵書点検・整理

介する「YPU』こんな知っちゃよる?』HP作り」、一年生の必修科目「基礎セミナー」の受講生メンバー二〇人で応募した「新生活応援 Eco Cookin' レシピ集を作ろう!」の計五件が採択されました。右頁上の写真で紹介しているのは「ゆ

かたで華麗に踊り隊」です。助成金で作ったそりいの大学ロゴマーク入りのハッピーで総勢五〇人のチームが市民総踊りに参加し、祭りが活性化すると市民の皆様からも支持を受けました。

このような学生の活躍の実績は文部科学省からも評価され、一九年度新設された「学生支援GP」に「総合的人間関係力を涵養する学生支援」大学と地域で作るブレ社会における実践的トレーニング」が採択されました。GP採択により一九年度は学生を大学のゲストではなくスタッフ



地元コミュニティ紙(サンデー山口 2008年3月1日)にとりあげられた「受験生おもてなし」

としてとらえる「ジュニアTA」制度を試行的に立ち上げ、春季休業を中心に一〇を超える大学内業務に学生たちが携わりました。業務内容としては、司書資格取得希望の学生たちによる附属図書館の蔵書点検・整理、附属郷土文学資料センターでの所蔵資料の電子テキスト化、附属地域共生センターが開催する市民カレッジの運営補助、大学院国際文化学研究所が主催する地域の伝統芸能「鷺流狂言」公演運営スタッフ、入試日の大学最寄り駅舎での受験生おもてなしスタッフ、卒業式運営スタッフなどです。

このような活動を通して、学生たちが企画することや働くことを楽しみながら社会経験を積み、人とかかわる力に付けてくれることを切に願っています。